

予報期間 10月11日から10月17日まで

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 台風第23号については最新の台風予報を参照。
- 13日から14日は、高気圧が沿海州付近から日本の東へ移動する。
- 14日から16日は、日本海から北陸地方や東北地方付近に前線が停滞する。
- 17日は、気圧の谷が日本付近を通過し、大陸の高気圧が日本海に張り出す。

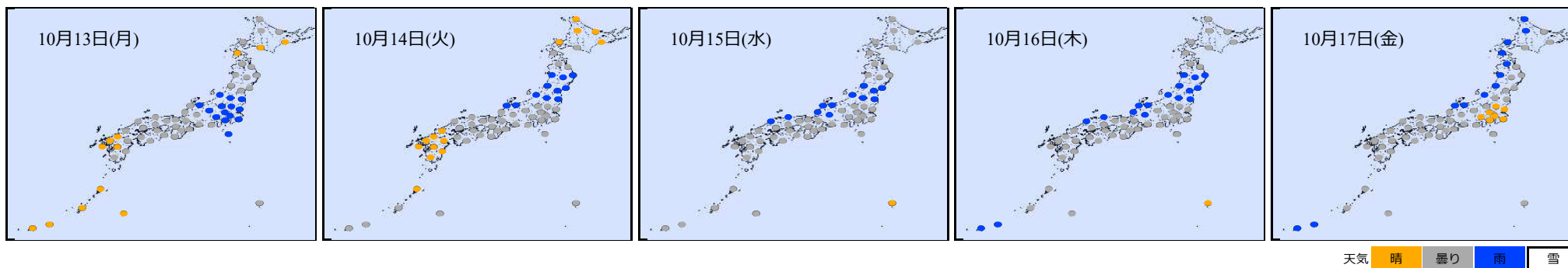
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 13日頃にかけては、台風第23号の影響で東日本の太平洋側では大荒れや大しけ、警報級の大雨となる所がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

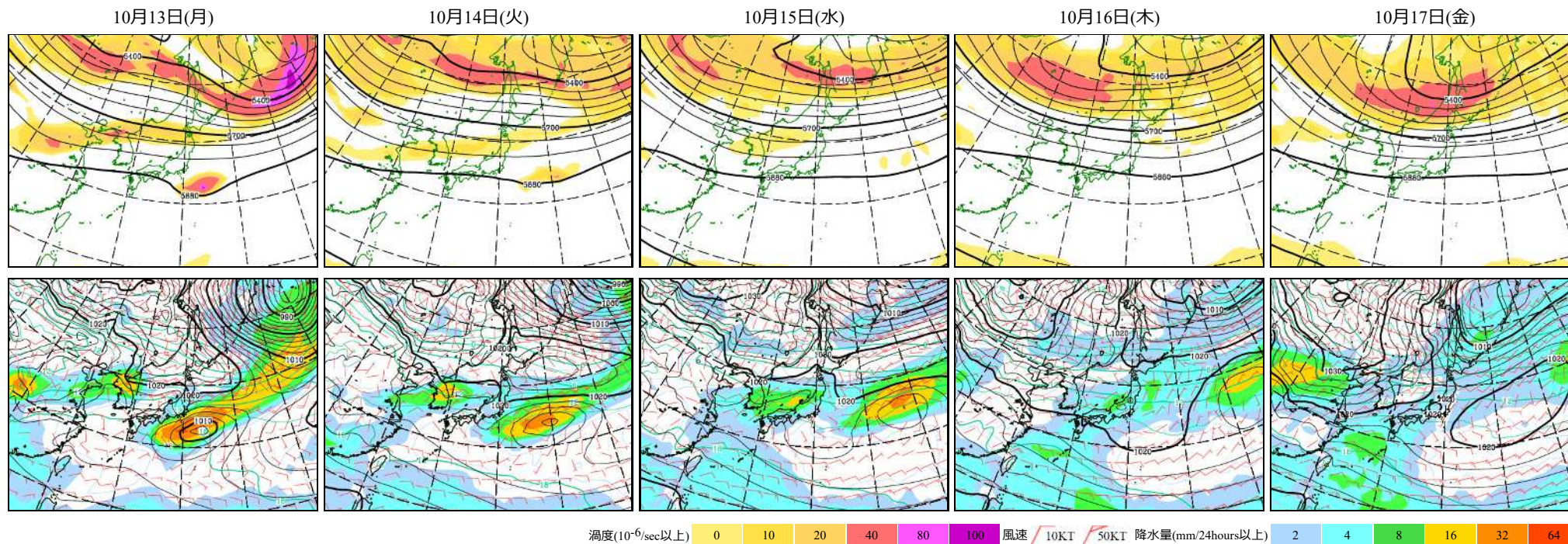
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

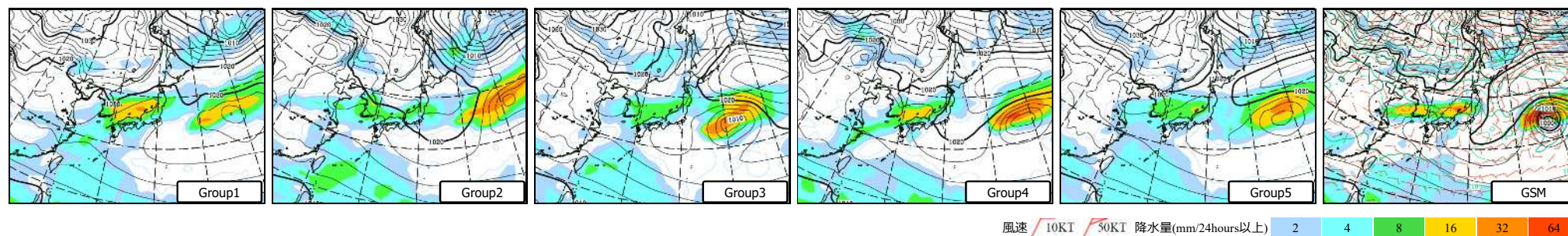


- 北日本は、晴れる所もあるが、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、曇りや雨の降る日が多いが、太平洋側は晴れる日もある。
- 西日本は、曇りや晴れの日が多いが、日本海側では雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、13日から14日は晴れや曇りとなるが、15日から17日は曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月15日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、15日は日本海に進む気圧の谷が深くなった。この影響で15日から16日にかけて東日本日本海側を中心に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは各特定高度線のバラつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。